

茨城県立勝田中等教育学校 一年

手をつなごう うさぎのアリーシャ

宇都野

真まこと

僕の家にはウサギのぬいぐるみがあります。僕が生まれたときに、父の友人でロシア人物理研究者のロマンおじさんが、アメリカから送ってくれたものです。ぬいぐるみの名前はアリーシャです。ロマンおじさんの奥さんのアリーシャおばさんからもらいました。僕は小さいころからうさぎのアリーシャがおきにいりで、今も大事にしています。

僕はロマンおじさんの祖国であるロシアという国にとっても興味があつて、その歴史についても勉強していました。

ロシアは、元々ソビエト社会主義共和国連邦という、世界で初めての共産主義国でした。そして白鳥の湖のチャイコフスキーや元素周期表のメンデレーエフなどの偉大な芸術家や研究者をたくさん輩出した国です。

しかし、ロシアは今、ウクライナという国に侵攻してい

て、毎日残酷なニュースが流れてきます。世界中がロシアを非難しています。僕も、侵攻や戦争は反対です。ロシアのしていることは正しくない、と思っています。

それでも、僕はロシアという国を嫌いにはなれないのです。なぜならロシアは、ロマンおじさんとアリーシャおばさんの大事な祖国だから、です。

最近、研究者の世界でもロシア人というだけで研究所等から追放される人たちが出ているそうです。そんなニュースを聞いたたびに、僕はうさぎのアリーシャを見て思います。

「ロマンおじさんとアリーシャおばさんはアメリカで大丈夫かな。」と。

父に話したところ、「お父さんも同じだよ。大事な友達だからね。」と言いました。そしてロマンおじさんはロシ

ア人なのに囲碁が大好きで、それがきっかけで将棋好きの父と仲良くなり、囲碁や将棋を教えあったり、対戦したりしたことを教えてくれました。母も、アリーシャおばさんから「ピロシキ」というロシア料理の作り方を教えてもらったそうです。

僕は、父とロマンおじさんのように、国を超えて世界中の人たちと友達になりたい、と思っています。そうしたら、友達の国は僕にとって大事な国になります。僕が友達の国を大事に思っていることが伝われば、きっと友達も僕の国である日本を大切にしてくれるだろう、そんなふうに僕は考えています。

それがどんどん繰り返されて、人と人とのつながりが大きな輪のようになったら、戦争は絶対に起こらないと僕は思います。

そのために、僕は勝田中等教育学校で毎日英語を勉強しています。それは、英語は世界中で広く使われている言語で、より多くの人と話すために必要なものだからです。さらにグローバル・コンピテンス・プログラムという授業で、グローバル社会で生きるための考え方や人とのつながり方、自分を表現する方法なども学んでいます。

そして、僕の家では外国の人と会うときや海外に行くとき

きなどに、必ずする準備があります。それは、「こんにちは」や「ありがとう」をその国の言葉で言えるようになることです。僕も兄も一生懸命頑張って覚えます。「ハロー」「セシキユー」から「ニーハオ」「シェイシエイ」「ボンジョルノ」「グラッツェ」「アンニョンハセヨ」「カムサハムニダ」僕たちがこう言うと、その国の人々はすごく喜んでニコニコしてくれます。そして、ときには「コンニチハ」や「アリガトウ」と言ってくれます。そういう時、僕はすごく嬉しくて「あ、この人とつながった。」と思います。

僕には国と国との戦争を止めることはできません。でも、これからも世界中の人たちとの「あ、この人とつながった。」を重ねて、友達になれるように努力を続けるつもりです。

そして、僕にとってのうさぎのアリーシャのような、その人自身を思い起こさせ、心を温めてくれる、そんなプレゼントを世界中の友達に贈りたいです。世界中の友達と手をつないで、平和な世界を作りたいです。

いつかロマンおじさんに会えたら、こう言うつもりです。
「ズドラー^(こんに)ストヴィ^(ち)チエ。ロマンおじさん。うさぎのアリー^(ありがとう)シャをくれてス。パシーボ。」